

被災時の 「遠隔共助」の取組み



令和6年2月19日



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

NPO法人こどもトリニティネット
西岡はるな

私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



目次

1. 団体活動について

- (1) わたしたちの活動について
- (2) ママ防災の取組み「ぎふママ減災スタディ」

2. 遠隔共助について

- (1) 背景
- (2) 目的
- (3) 取組み内容と手法
- (4) 今後の展望



(1) わたしたちの活動



- 2016年発足の子育て支援団体。
ママ1000人のネットワーク。
- 産後うつ・孤独化防止
「ぎふママ子育てサロン」
- シビックプライドの醸成
「Tunagu GIFUママプロジェクト」
- 行政へのアドボカシー（政策提言）
JR岐阜駅エレベーターの整備に関して
旧岐阜市役所内のオムツのゴミ箱設置に関して



詳しい
活動内容はこちら





(1) わたしたちの活動



「ママだからできない」を「ママだからできる」へ

- ママと企業のマッチング
「ぎふママのための就活フェア」
- 教育機関と連携、女性デジタル人財育成
「未来をつくるデジタル入門」
- 自治体、金融機関と連携
「女性人財マッチング」





(2) ぎふママ減災スタディの取組み

きっかけ

ワンオペレーション育児をしている中、
もし災害が起きたら、果たして自分一人で2人の子どもを守れるだろうか



目的

1. ぎふで住み暮らす子育て世代が**家庭での備え**を実践すること。
2. 災害時に**自身の命**はもちろん、**大切なもの**を守れるようになること。

ぎふママ減災スタディ
スタート!

手法

- 防災をテーマにしたイベント・セミナーの企画運営
- SNSを通じた情報発信
- ママのための防災BOOKの制作・発行



(2) ぎふママ減災スタディの取組み内容

ぎふママ減災スタディ
最大の課題！！

- 2017年スタート当時
もともと危機感を持っている子育て世代の参加率高い◎



▼
「本当にリスクがあるのは、防災に関心がない層」

- 災害時、子どもをなんとしても守りたいと感じるママは100%
➡しかし実際の災害対策・行動とはまた別問題・・・

興味のないひとたちを、どうやって巻き込んでいったらいいか？



(2) ぎふママ減災スタディの取組み内容

- ①何をすればいいかわからないママたちを対象
- ②防災だけでなく関連する楽しいブースを用意
- ③どんなことがきっかけで来てもいい

→親子120組が参加!



ぎふママ減災スタディ BOUSAIフェア

岐阜市市民活動支援事業

協賛：岐阜市 / 岐阜市教育委員会 / 瑞穂市教育委員会 / 各務原市教育委員会 / 本巣市教育委員会

入場無料

防災グッズ
プレゼント

BOUSAIフェアでは
子育て世代にとっての本当に必要な備えてなに??
なにをすればいいのかわからないママさんに来てほしい
ブースがもりだくさんです!

親子で楽しく学べます!

- 子育て世代と女性に嬉しい防災グッズ、液体ミルク等のおみやげ無料配布
- 非常食にもなるおいしいおやつクッキングの実演&試食
- 白バイに乗って写真を撮ろう!
- 岐阜県内で活動する防災団体によるブース

会場は
コチラ

日時	9月11日(水) 10:30~14:00
会場	みんなの森 ぎふメディアコスモス みんなのギャラリー 駐車場 2時間無料
対象者	岐阜県内すべての子育て世代の方
予約者特典	9月10日までに BOUSAI フェア または 防災ママカフェに 事前予約してご参加いただいた方に スターバックスカードをプレゼント! <small>※先着 100名様限定</small>

事前予約はコチラから! ▶▶▶
https://coubic.com/kodomo_tn

※予約がなくても入場できます

同日開催! かもんまゆ先生「防災ママカフェ」 ※こちらは別途事前予約が必要です

食料定価よりお安く大人気満席「防災ママカフェ」
東日本大震災で被災したママと子どもたちへの物資支援活動を機に、ママのための防災ブックを企画制作。被災地のママたちのリアルな体験と子どものいのちを守るための知識を伝える「防災ママカフェ」を開催。全国200ヶ所、1万6000人以上が参加、NHK Eテレ「すくすく子育て」等メディア取材、出演多数。

時間	10:30~12:30 (受付開始 10:20~)
会場	メディアコスモス内 かかんがえるスタジオ
参加費	1,500円

会場は
コチラ

主催団体：NPO 法人こどもトリニティネット
事務局：〒502-0016 岐阜市雄飛桜町3丁目82番地
お問い合わせ：TEL：090-4218-4740 FAX:058-231-7382 Mail：kodomo_trinitiy@yahoo.co.jp

Follow us!

kodomo_tn



(2) ぎふママ減災スタディの取組み内容～フェーズ2:コロナ禍～

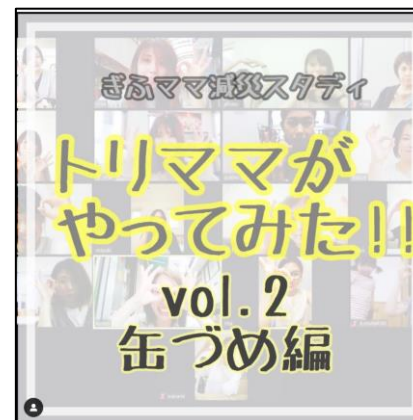
・新型コロナウイルス：対面でのセミナー・イベントが出来ない

実施予定だった「ママ友避難シミュレーション」も中止

情報発信に特化！

SNSを活用した防災情報の発信 「トリママやってみたシリーズ」

トリママが各家庭であらゆるな非常食やカップ麺（水で戻す）を試食・レビューし、まとめを発信。



- ・大人はもちろん子どもも美味しいか
 - ・子どもの手で開封できるか
 - ・栄養面での工夫
- フリーズドライの野菜などを入れれば栄養も精神的に安心につながる

(2) ぎふママ減災スタディの取組み内容

専門家と協力のもと、ママのための防災BOOK～水害編～の制作・発行



事前準備

ポイント

- ・岐阜、長良川での洪水が起こる未来予測
- ・ハザードマップの視方
- ・防災気象情報
- (内閣府の基準／ママ／専門家解説)
- ・木曾三川防災情報のチェック方法

知識

判断

行動

- ・避難場所を考える
- ・避難に必要な時間と移動手段
→避難を決意してから
安全な場所へ移動完了までの時間

- ・備蓄品を準備しよう
- ・オリジナル我が家のライフスタイルシートを作ろう

時間	ルーティン行動				ルーティン行動での使用物				災害に対する備え		
	父	母	子ども	おん	電気	ガス	水道	下水道	その他	事前に準備する物	事前に把握する事
例	出勤・通勤 お洗濯	起床・朝食準備	起床・朝食・登園準備		テレビ	コンロ	洗濯機	トイレ	その他	防災用品 お風呂の湯 お風呂の湯	避難場所 避難経路
6:00											
8:00											
10:00											
12:00											
14:00											
16:00											
18:00											
20:00											
22:00											
春の備え ☆											
夏の備え ☀			秋の備え 🍁			冬の備え ❄			我が家に必要な備え 🏠		
次回の見直し時期は 年 月 日頃											



事前準備こそいのち・生活・大切なものを守るカギ

(2) ぎふママ減災スタディの取組み内容

ポイント・特集ページ

トリママやってみた！



1. 実際に試しての「レビュー」での気づきや、ママならではの工夫できるアイデアを掲載。
2. ママだからこそ知りたい避難所利用手順・避難所事情など一歩踏み込んだ情報にも触れた。
3. 岐阜市都市防災部／国土交通省 中部地方整備局木曾川上流河川事務所などの専門機関と連携。



- 【防災BOOKを活用したセミナーの実施】
- ・ やって見たシリーズを実際に試してもらう
→ 感想をアウトプットし合う時間も
 - ・ 子育て支援センター等と連携



2022年清流の国ぎふ防災・減災センターの防災活動大賞受賞



2. 遠隔共助の取組みについて



(1) 背景

- ママ防災に取り組み、ふと気づいたこと
「支援する側の私たちも、岐阜に住み暮らしている」

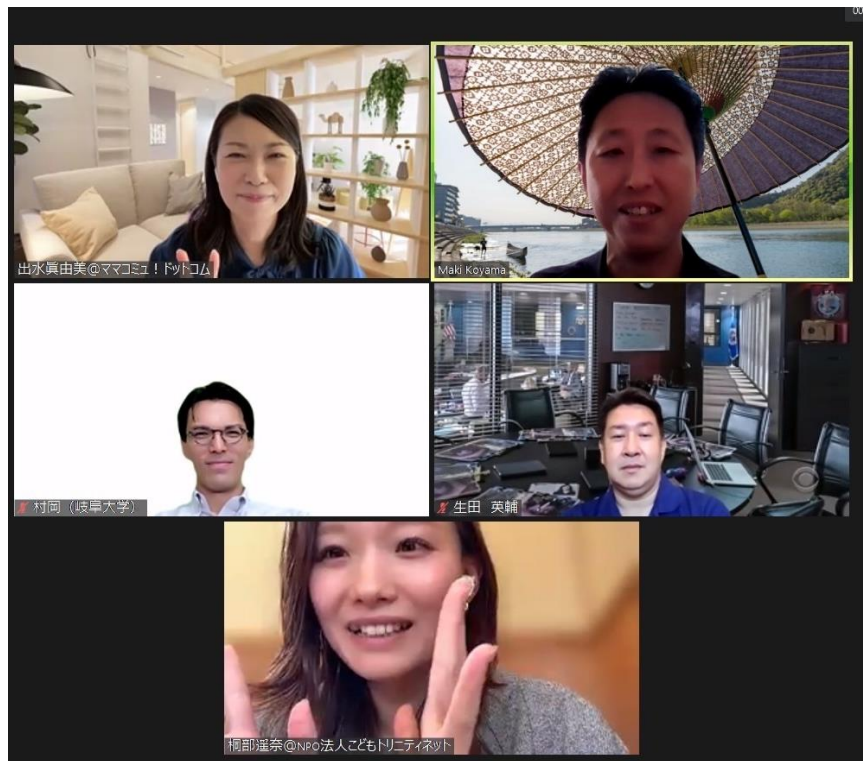
「発災時には支援者も被災者になる可能性が高い」



支援する側ではなくされる側になる可能性も高い
「どうしよう・・・」と不安になった

避難所での生活の大変さも
何となく知っている・・・

(1) 背景



- 大阪市の子育て支援団体との出会い
(繋いで下さった防災士・近藤さんに多謝)

- 専門家の先生方からのご助言

大阪公立大学 都市科学・防災研究センター 教授 生田 英輔先生
岐阜大学 流域圏科学研究センター 准教授 小山 真紀先生
岐阜大学 地域減災研究センター 特任准教授 村岡 治道先生

**岐阜以外の地域と繋がって
協力し合うことができるのでは？**

両団体の共通した課題

- ①子育て世代の特性
 - ・子育て当事者の地域活動や防災への関心が薄い。
 - ・防災リテラシーの向上や防災モチベーションの維持に対して、持続的な働きかけやアプローチに工夫が必要。
- ②団体としての特性
 - ・他団体とのコミュニティ形成不足により
防災の啓発、推進に必要なノウハウのアップデートの機会が少ない。
- ③支援体制の崩壊
 - ・発災時には支援者も被災者になる可能性が高い。
 - ・要支援者、要援護者に対して十分な支援ができなくなる。

助け合えるのは近隣住民だけではない→

遠いからこそ助け合える【遠隔共助】

(1) 背景



×



助け合えるのは近隣住民だけではない

→ 遠いからこそ助け合おう「遠隔共助」

2022年8月大阪市「ママコミュ!ドットコム」との
災害連携協定締結



第9回ジャパンレジリエンスアワード
国土強靱化大賞 準グランプリを受賞

(2) 目的

1. 【平時】ママ防災の強化をすること

- ・基礎知識の習得
- ・子どもの月齢、年齢や個性に応じた備えの選択肢を増やす

2. 【平時】子どもとの接点の多い人・場所の防災力の強化をすること

- ・幼稚園、保育園、児童施設などの防災対策のノウハウ共有
- ・BCP(事業継続計画)策定支援、カードゲーム、シミュレーション訓練の開発

3. 新しい共助のカタチ=遠隔共助の有効性を検証をすること

- ・スペシャルニーズのある被災者への支援
- 「遠隔避難の有効性を証明する実証実験」社会実装

(3) 取組み内容と手法

「スペシャルニーズ」のある子ども・その家庭に対する
指定避難所以外の遠隔避難と支援の仕組みづくり

スペシャルニーズ

- ・病気や障がいのある子ども
- ・発達障がいのある子ども
- ・特定のアレルギーがある子ども(食べ物や生活環境)
- ・外国ルーツの子ども
- ・ヤングケアラー
(=家族の介護や世話を日常的に行う子どもや若者)

- ・出産を控えている妊婦(2人目、3人目妊婦を含む)
- ・ひとり親家庭
- ・里親家庭
- ・住宅要配慮者など

子育て世代や、スペシャルニーズが直面する課題

- ・小さな子どもを連れた避難者や家庭の困難

→子どもが自由にあそんだり、動いたりする空間が少ない

そもそも避難所生活に遠慮や不適合がある

- ・避難所の備蓄品に子育て世代のニーズに合った物資が不十分な場合も多い

- ・不確かな情報の氾濫

- ・スペシャルニーズ 「見知らぬ他人の中での集団生活を避ける」

→自宅や公園、車中などで高リスクの避難生活を選択

(3) 取組み内容と手法

(一社) 全国大家の会と連携・住宅セーフティネット法「居住支援」を活用



スペシャルニーズを含む要配慮者が
入居可能な空き家、空室のデータベースを持っている
大家の会との連携

<法的根拠>

H26広島土砂災害、H28年熊本地震: 二次災害の不安から避難生活を余儀なくされた被災者が多い

→ 災害救助法が適用された区域に災害発生時に住んでいたものは
住宅に被害がなくても、被災者として要配慮者に該当することとされている。

(3) 取組み内容と手法

- 「遠隔避難の有効性を証明する実証実験」

2023年3月大阪から岐阜への遠隔避難シミュレーションを実施

- 一家族3人が来岐
- 災害により大阪での子育てや教育、就労などの維持が困難に
- 生活の立て直しが必要になった想定

岐阜市内での避難生活における具体的な検証

+「岐阜の街を自分のこれからの暮らしの拠点にできるのか」という観点も重要



(3) 取組み内容と手法

- スペシャルニーズの受け入れ可能な事業者・団体との連携
 1. 発達障がい児・障がい者等の受け入れ可能な福祉事業所
 2. 妊産婦を受け入れることが可能な産科・クリニック
 3. 生活していく上で必要になる支援を行う団体
 4. 遠隔地からの避難者を受け入れ可能な旅館・ホテル
 5. 被災地の住宅修繕、復旧に必要な建設事業者団体

(3) 取組み内容と手法

- ・ **スペシャルニーズの受け入れ可能な事業者・団体との連携**

1. 発達障がい児・障がい者等の受け入れ可能な福祉事業所

2. 妊産婦を受け入れることが可能な産科・クリニック

3. 生活していく上で必要になる支援を行う団体

4. 遠隔地からの避難者を受け入れ可能な旅館・ホテル

5. 被災地の住宅修繕、復旧に必要な建設事業者団体

(4) 今後の展望

コンソーシアム化による連携力強化

子育て団体同士の連携

岐阜、大阪、静岡、新潟、熊本5拠点連携めざす

社会性と経済性の両立

- 遠隔避難のための資金確保：民間保険の月額料金に加算するなどの検討
- 平時：支援先の旅館、ホテル、宿などの施設周辺での観光へ
→協力先の施設周辺の観光など、レジリエンス×ツーリズムにつながる仕組みに

